

評価報告概要表

第三者評価機関

名 称	社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
評価調査日	平成18年11月29日(水)

福祉サービス事業者情報

名 称	オアシスはぎ園	種 別	特別養護老人ホーム
代表者氏名	施設長 大井俊昭	開設年月日	昭和54年11月1日
設 置 者	社会福祉法人 山口県社会福祉事業団	定員(利用人数)	100名(100名)
所 在 地	〒759-3611 萩市大井1723-6		
電 話 番 号	0838-28-0088	FAX番号	0838-28-0274
ホームページアドレス	http://www.haginet.ne.jp/users/hagien/		

総 評

全体を通して(事業所の優れている点、独自に工夫している点など)

特に評価の高い点

1. 法人の理念及び基本方針に基づき、中・長期計画及び事業計画が詳細にかつ整合性をもって策定され、施設長の強い意欲と指導力により、計画的に実施されている。
2. 基本理念のもとで、利用者本位の取組み内容を「オアシス七星」として具体化し、各取組みを組織的に遂行するために各種の検討委員会を設置するとともに、業務の標準化を図るために各種マニュアルが広範囲にわたって整備されている。
3. 廃用症候群予防という明確な目標を掲げ、身体機能の低下防止、精神の活性化、生活活動の保持に重点を置いたりハビリや各種の療法に積極的に取り組み、その結果、要介護度の軽減に結びついている。
4. 地域における社会資源としての強い自覚を持ち、貴重な役割を果たすことにより、地域から寄せられる期待も大きいものがうかがえる。

改善を求められる点

1. 複数の施設を経営する大規模な法人組織にもかかわらず、主体性のある積極的な各種の取組みを行っていることは大きく評価できるが、人事管理面においては大規模施設ゆえの難しさを抱えている。
2. 検討委員会や各種マニュアルにより、課題の共有化や組織的な取組みに努めている様子はあるが、職員に対しての聴取の中で、細部については浸透の不十分の点が見受けられ、今後、職員理解や周知についての課題としていただきたい。

第三者評価結果に対する事業者のコメント・事業所のPR

この度、評価を受け、利用者本位のサービスを提供する上において本園として更に取り組まなければならない課題が把握でき、職員一丸となって、更なるサービスの向上に取り組む決意を新たにしました。

当施設では、『その人らしさを大切に』を基本理念に、利用者一人ひとりの価値観や人柄を大切に、自律した生活の幸せが実感できるよう専門的な支援の確保に日々研鑽し、生命の質の向上に努めます。

評価報告概要表

評価分野別評価結果(分野別の特記事項)

福祉サービスの基本方針と組織	a	9	b	1	c	2	Na	0
<p>1. 中・長期計画については、取組み事項ごとに改善の具体的目標及び達成期限が明確に定められ、単年度の事業計画に適切に反映され、計画的に実施されている。期限終了後にはきめ細かく達成度の評価が行われ、未達成の事項はさらに次年度以降に引き継がれている。</p> <p>2. 充実した各種検討委員会の運営をはじめ、利用者の生活の質向上への多様な取組みに、施設長の強い指導力がうかがえた。</p> <p>3. 理念、基本方針及び各計画の利用者等へ周知のあり方について、環境上の制約等により全員への配布は困難とされている。文書内容の簡素化や表現のわかりやすさに工夫するなど、配布方法等については改善の余地があると思料する。</p>								

組織の運営管理	a	16	b	2	c	3	Na	0
<p>1. 職員の教育・研修についての基本姿勢が明確にされ、経験や分野別の区分に基づいた研修が実施されているが、一人ひとりの職員に対する個別のプログラムはない。今後の人材育成推進のため、透明で客観的な基準に基づいた人事考課を導入するとともに、研修履歴や評価に基づいた個別の研修計画を策定し、課題や目標を明確に示せば、さらなる向上意欲につながるものと思料する。</p> <p>2. 実習生の種別に配慮したプログラムに基づき、毎年多くの実習生を受け入れており、人材育成の積極性は大いに評価できる。</p>								

適切な福祉サービスの実施	a	24	b	1	c	1	Na	0
<p>1. 「一人ひとりの人柄・思い(価値観)を尊重し、人としての尊厳を大切にする人間性豊かなホーム」を目指す、という施設長の強い思いが施設運営や利用者支援体制の随所に現れている。特に、サービス改善に向けた各種検討委員会の設置やマニュアルの整備など、取組みのための組織体制は非常に充実している。</p> <p>2. 施設の運営内容等の状況について、法人や施設の広報誌で積極的に情報開示が行われている。ホームページ上の掲載もあるが、検索しにくく、活用の便宜のための改善が望まれる。</p>								

良質な個別サービスの実施	a	21	b	0	c	0	Na	0
<p>1. 利用者の生活環境については、多人数部屋や入浴設備などのハード面での問題に対して、快適性や安全面への配慮から逐次きめ細かな改善・整備が行われている。</p> <p>2. 栄養ケアマネジメントや嗜好調査で個別ニーズを把握しながら、多種多様の形態やメニューでの食事を提供するなど、個人の食環境の改善への積極的な取組みが見られる。特に、栄養ケアマネジメントの効果については目覚ましいものがあり、それが数値的にも実証されているとのことであった。</p> <p>3. 「心身の残る機能を大切に、リハビリ実施で予防と自律を適える」という、廃用症候群防止への強い思いに基づいた各種の取組みにより、実際に要介護度の軽減につながっていると同時に、利用者自身への動機付けも進んでいると思料される。</p>								